

5月29日 前ソースネクスト株式会社 取締役・専務執行役、POCKETALK（ポケトーク）副会長 藤本 浩佐氏

学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ

イントレプレナー視点からのアントレプレナーシップ論ということで、今回の講義はとても勉強になりました。実際に藤本さんが行ってきた事業展開は、大企業にありがちな停滞を7つのSを基盤に変革しながら、大企業だから持っている会社のリソースや人員を活用することで社会に実質的な影響を与えており、独立することが必ずしも最善策ではないことがよく理解できました。「20代での仕事のやり方が、これから仕事のやり方の8割を決める」と言われて納得し、年間千枚の名刺を集めようとしていた、とおっしゃっていましたが、その話を聞いて以前登壇された富田さんも同じようなことを言っていたのを思い出しました。そのことを受け、お二方ともが組織の変革やイノベーションを成功させてきたことには、新卒時期に全力で積んだ社会経験が影響しているのではないかと感じました。

また、今回の講義中に最新のポケトークを使い、「同時翻訳機はここまで速く正確なのか」と衝撃を受けました。以前からAdobeなどのサービスで、文章化された言語の翻訳精度が急速に進化しているのは感じていましたが、AIの発展に伴い会話の翻訳も急成長しているのを目の当たりにし、東アジアと欧米の外国語学習の労力の差がさらに縮まるのではないかと希望が持てました。

今回は講義をしてくださりありがとうございました。（経営学部1年）

藤本氏は横浜国立大学の卒業生であり、同じ大学に通う私にとってそのキャリアや考え方は非常に刺激的で、今後の人生を考える上で大きな学びを得ることができた。講義の中で特に印象的だったのは、藤本氏がイントレプレナーとして、企業の中から新たな価値を生み出す挑戦を続けてきたという点である。特にコロナ禍という不確実な状況の中でポケトークをはじめとする事業を柔軟に展開し、売上を着実に伸ばしていく姿は、まさに逆境をチャンスに変える力の象徴であった。また、時代の変化を先読みして電話番号が一桁減る際に必要となるソフトを開発したという話からは、課題を察知し、それに即応する先見性と行動力の重要性を感じ取った。私は現在、大学二年生としてこれから本格的に始まる就職活動に向けて、自分の強みや価値観を見つめ直す段階にある。そんな中で、藤本氏のように「自ら課題を見つけ、他者のために動く姿勢」は、将来どのような職種を目指すとしても必要不可欠な資質であると感じた。そして、その考え方は私の現在のアルバイトの経験とも深く通じる部分があった。私は現在居酒屋のアルバイトをしている。私の勤務する店舗ではモバイルオーダーを導入しており、注文の効率化が図られている一方で実際に店頭に立っていると「お客様にとって少し不便なのでは」と感じる場面も多い。例え

ばお代わりのドリンクや追加のフードを注文したいとき、再度スマートフォンを操作する必要があり、特に年配のお客様やスマートフォンに慣れていない方にとっては煩わしさがあるようだった。そのような背景から、私はホールに出る際にはなるべく「お代わりはいかがですか？」と声をかけるようにしている。もちろん、システムとしてはスマートフォンからの注文が前提であるが、やはりお客様にとっては「人が気にかけてくれる」という安心感が大きいようで、「わざわざ聞いてくれてありがとう」「やっぱり声をかけてもらえるのはうれしいね」と感謝の言葉をいただくことが多い。このようなやり取りの中で、単にシステムを運用するだけでは得られない「人とのつながり」が生まれることにやりがいを感じている。藤本氏が社会の変化を的確に捉え、ユーザーの立場から物事を考えて行動しているように、私自身もアルバイトを通じて「どうすれば相手が快適に過ごせるか」「どんなサポートが求められているのか」を常に意識するようにしている。この小さな気づきの積み重ねが、やがて大きな価値につながるのではないかと思っている。さらに、藤本氏の話から学んだのは「失敗を恐れず、柔軟に動くこと」の大切さである。藤本氏は過去に失敗を経験しながらも、その経験を糧に次の成功へとつなげてきた。就職活動を控える私にとって、これは非常に心強いメッセージである。大学生活の中での挑戦や失敗は、すべてが未来の糧になる。だからこそ、今のうちにさまざまな経験を積み、恐れずに動いていくことが大切なだと感じた。同じ横浜国立大学の卒業生である藤本氏が、世界を舞台に活躍されていることは、私にとって大きな誇りであると同時に、目標でもある。自分の進むべき道に迷ったときには、今回の講義で得た「人のために動く姿勢」「変化を捉える視点」「挑戦を恐れない心」を思い出し、日々を前向きに生きていきたい。（経営学部2年）